



原作 宇佐見りん
『推し、燃ゆ』河出文庫

第164回芥川賞受賞&
2021年本屋大賞ノミネート作品

あらすじ

あかりは学校とも家族ともうまくいっていない女子高生。唯一の生きがいは、8歳年上の男性アイドル真幸を"推す(応援する)"こと。ある日、真幸がファンを殴るという事件が発生し、炎上したことから、あかりの「推し」のための日常に大きな変化がおとずれる――。

スタッフ

脚色/宮本敦 演出/奥洞昇
美術/齋藤裕子 音楽/茨木新平
照明/永山康英 効果/サイヒロト
制作/隅田芳郎

宇佐見りん/作『推し、燃ゆ』(河出文庫)

上演にあたって

「推し」という現代性のある題材を入口にして、若者の生きづらさ、思春期の心身の問題に向かい合います。生きづらさは、色々な形があり、心身を自身でコントロールし続ける事は当たり前のことではありません。そのことはコロナ禍を経てさらに顕著になり、思春期の心身コントロールはますます大変な時代になりました。一見当たり前に見える社会生活を送る事の難しさや、自分自身との折り合い、それらを抱えながら、いかに喜び・希望を持って生きるか、懸命にあがきながら何かを見出そうとする姿を、主人公の立場に寄り添いながら人形劇で描きます。